

**【ドル高一服】**

先週末、ドル高が加速していた。EU 諸国の格下げによるユーロ売りの受け皿として買われた分、ドルサイドの要素が薄い。もともと、ドル高の支える要素として相対的な米国景気回復力が期待される以上、景気回復を証左する材料の継続が肝心である。が、右上がり急回復する環境ではないだけに、これからしばらく出にくいと思われる。焦点となる米雇用統計では、12月分の雇用が20万人増、失業率は0.2ポイントの低下だったが、年末商戦のため用意された就職口が新年に入ってから再び失っていくなど、好調が続かない公算が大きい。その上、FOMCによる来年中場まで金利据え置きの見通しとその後の利上げ期待をもたらしていたが、時間軸の削除でマーケットのコンセンサスが合致しにくくなり、米QE3の可能性と相まって、ドルの上値を抑える要因となろう。こういった材料をまだ織り込んでいないだけに、ドル高トレンドが続くものの、モメンタムの一服はそろそろ出現してもおかしくないだろう。

**【ユーロサイド、悪材料出尽くし？】**

想定範囲とは言え、S&PによるEU諸国、特にフランス格下げの決定が依然マーケットに衝撃をもたらしている。もともと、フランスの格下げが一番危惧されただけに、先週末ユーロを初め、諸外貨の急落も当然の成り行きと見るが、かなり広い範囲で想定されるだけに、EUサイドの悪材料は一旦出尽くした感がある。対照的に、昨年21日実施されたECBによる3年物長期流動性供給の実施がEU銀行の資金調達環境を大幅に改善し、先週イタリア、スペインの国債入札の成功もあってEUの状況はむしろ落ち着きを見せている。しかし、マーケットは年末年始にかけて専らEUの情勢悪化シナリオを織り込み、S&Pの決定がさらに拍車をかけることとなったが、売りポジションが極端なまでに積み上げられている状態は、行き過ぎ感を否めない。勿論、引き続きギリシャデフォルトの可能性、或いはEU銀の資本増強計画の難航など悪材料がこれからもユーロの頭を押さえる公算が大きいのが、ポジション整理の需要が高まった分、前記EU状況の落ち着きがこれから材料として浮上してくる確率も高まる。「S&Pショック」から一旦立ち直るか。

**【政局の行方、円を左右？】**

クロス円通貨に主導される円高に日本当局は事実上諦めムードが強く、ドル/円の動意薄もあって、円高が放置された状況にある。消費税アップの布局として、野田政権の内閣改造が行われたが、足元ではマーケットには特別材料視されていない模様。但し、消費税増税を巡る政局の流動性に鑑み、材料難であるだけに、投機筋に利用され、仕掛け的な変動に晒されるリスクは無視できない。一般論としては、増税が規定路線であれば、中長期要素として日本のデフレ環境を長引かせる可能性が強いので、円高の材料として意識され、また投機筋に利用される恐れがある。

## ドルインデックス

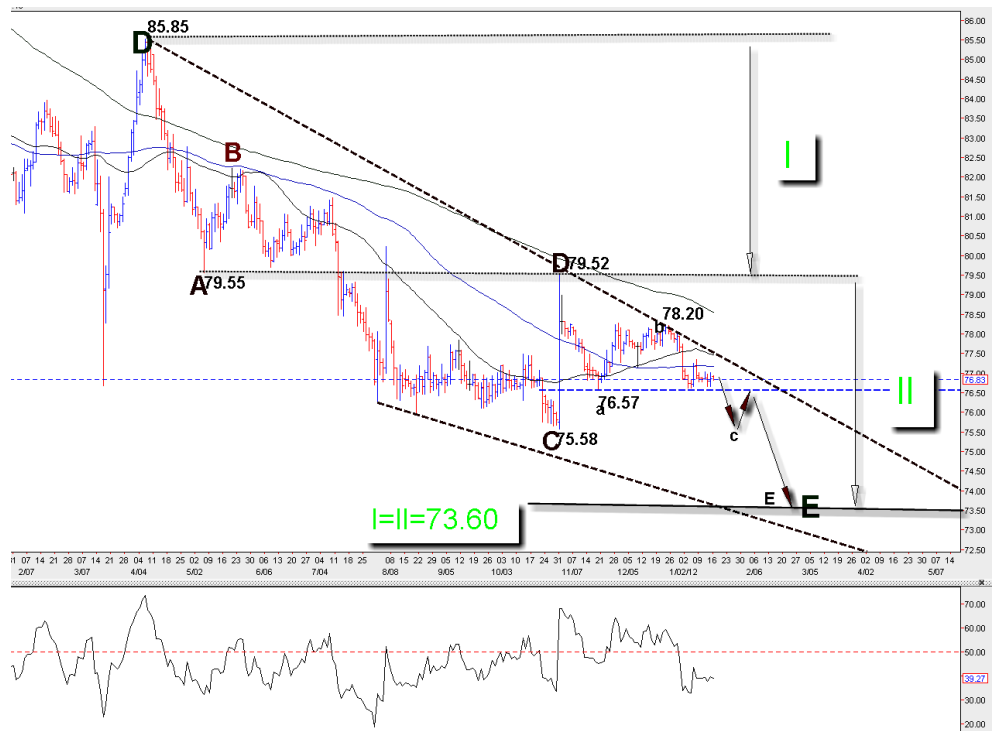
- ※ 2001 年高値(121.00) 起点とした下落変動は三段下げの形で 2008 年安値(70.79)をもって終了し、大型のトライアングルの形成をもって底打ちを図る。
- ※ 5 月安値は 38ヶ月サイクルのボトムとなり、8 月安値(73.56)から A-B-C の三段上げパターンを展開、74.72 をもってそのB波調整を終焉させた。
- ※ C 波上昇は 83 前後の高値に照準、昨年 5 月安値を起点とした切り返しを N 字型変動と見なす場合、前記ターゲットに整合性を持つ。
- ※ 一方、68 日サイクルは 81.80 前後にて一服の公算を示唆、78 前後まで調整してから 83 の大台を狙う公算。今週頭打ち、至って反落してこよう。



ドルインデックス 日足 抵抗: 81.80 82.60 83.57  
支持: 80.53 79.85 78.25

## 米ドル/円

- ※ 07 年高値(124.18)を起点とした下落変動は 5 波構造を持ち、現在最終段階の E 波変動に位置する。73.60~74.30 は最終ターゲット。
- ※ 08 年高値(110.68)から大型「下落ウェッジ」といったフォーメーションを形成したものの、80 関門を上回れず、なお下値トライの公算。
- ※ 85.50 を起点とした下落変動を 5 波構成と見なす場合、日銀介入後の高値(79.52)は D 波トップとされ、目下 E 波下落の途中。
- ※ 更に E 波を三段下げと分析。B 波反発が 78.22 に限定され、足元では C 波進行に当る。76.55 を下回れば、73.60 前後まで下値余地を拓く。



ドル/円 日足 抵抗: 78.35 80.30 82.23  
支持: 76.55 75.30 73.60

## ユーロ/米ドル

- ※ 昨年5月高値(1.4940)を起点とした下落変動は大型 A-B-C の下げパターンをもって昨年安値を下回り、1.3145 を起点とした調整波(B波)は1.4245 をもって終焉し、C波調整が続く。
- ※ A=C といった N 字型変動を想定した場合、C波は最大1.2450 前後まで伸びる公算。但し、1.2560~80 前後のサポートを確認できれば、一旦戻る余地。
- ※ 10年6月安値~11月5月高値までの変動は同 N 字型変動に近い。09年高値から引かれた大型トライアングルと整合性を持つが、偏ったポジションの決済需要で早期底打ちの可能性。
- ※ 今週底打ちのタイミングを探り、その後一旦切り返しを展開する公算。1.2905を上回れば、最大1.3400 前後の高値をトライしてから再反落。



ユーロ/米ドル 日足	抵抗: 1.2905	1.3235	1.3596
	支持: 1.2580	1.2450	1.2150

## ユーロ/円

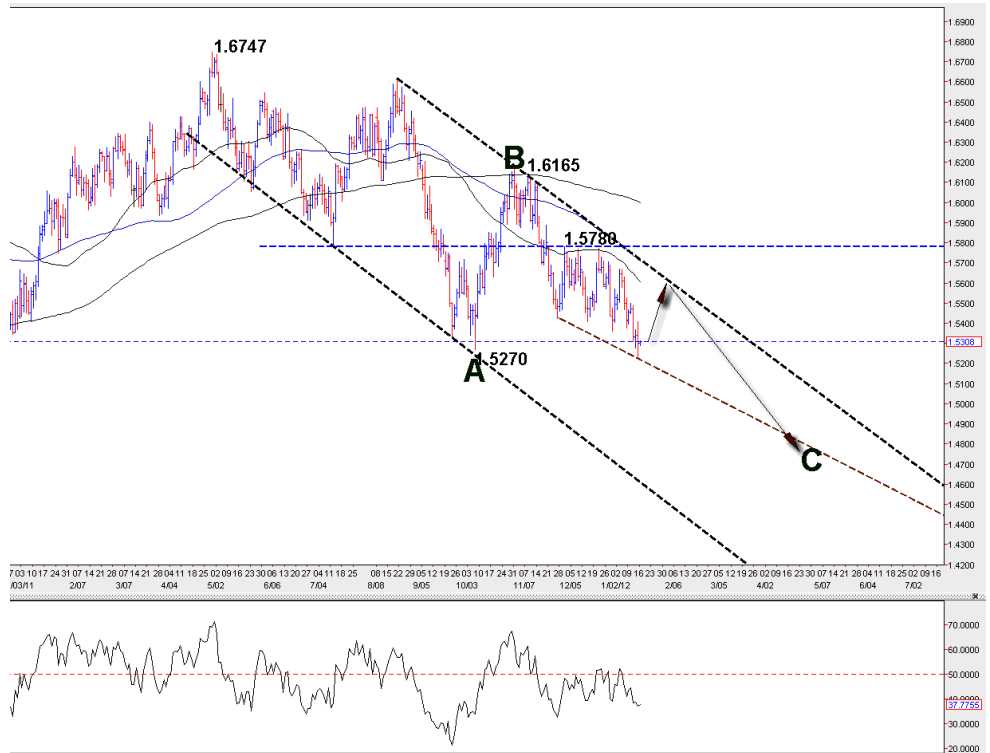
- ※ 08年高値(169.92)を起点とした下落変動は大型三段下げのパターンを示し、現在その C 波の途中と位置づける。サイクル通りなら、C 波の終点は 2~4 月前後に出現する公算。
- ※ 1月10日安値と4月高値(123.30)から引かれたフォーメーションは大型下落ウェッジの可能性を示唆。ウェーブカウントでは足元を C 波(青)下落変動と位置付ける。
- ※ C波自体を更に三段下げと見なし、111.59 を起点としたc波下落は 96.65 割れをもって直接 94.00 関門前後のターゲットをトライする可能性。
- ※ その後 D 波(青)リバウンドを展開、最大 104~105 前後に伸びず余地があるものの、調整波であるだけに、その後 C 波の推進で最大 2000 年安値(88.87)手前に迫る。



ユーロ/円 日足	抵抗: 98.82	100.80	102.91
	支持: 96.65	94.10	90.30

## 英ポンド/米ドル

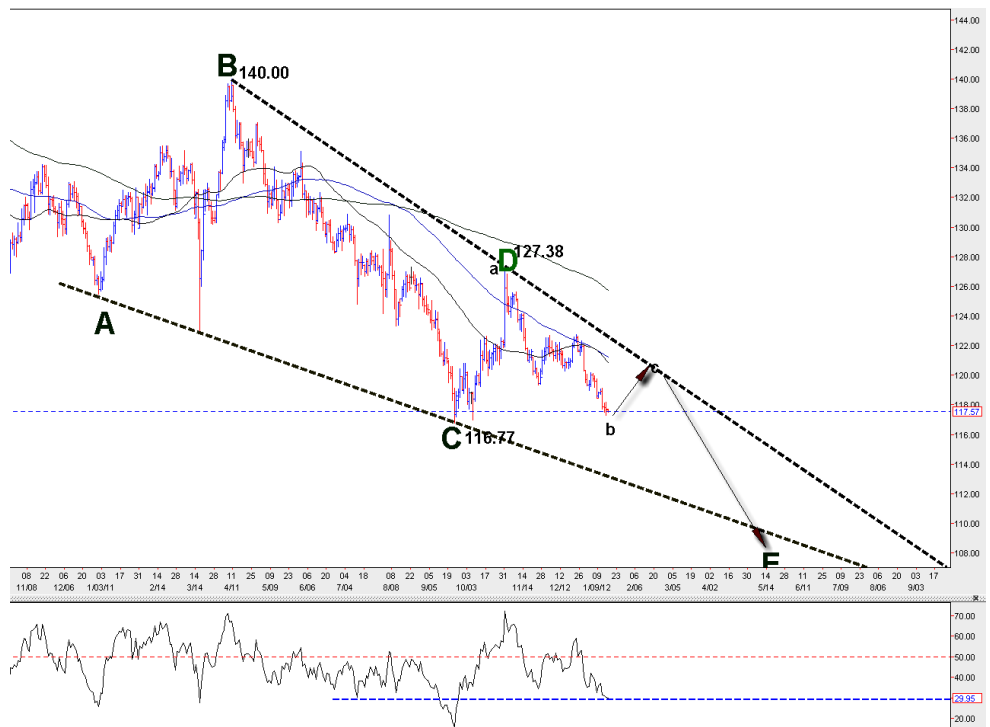
- ※ 8月高値(1.6615)を起点とした下落変動は大型 A-B-C の三段下げパターンとなり、1.6165をもって B 波反発を終了させ、足元では C 波下落に位置する。
- ※ 1.5270 割れをもって C 波の中段保ち合いは消滅。C 波ターゲットの 1.4690~1.5040 に照準。但し、1.5235 前後にて一旦サポートされる公算。
- ※ 1.6165 を起点とした下落変動は大型下落ウェッジ型といったフォーメーションを形成する公算、1.5600 前後はメインレジスタンス。
- ※ 1.5235 割れが生じるまでに一旦切り返し、最大 1.5600 手前まで上値余地を拓く可能性があるが、いずれ頭打ちしてから再反落、1.5000 関門をトライ。今週まずリバウンド先行か。



英ポンド/米ドル 日足 抵抗: 1.5410 1.5505 1.5600  
 支持: 1.5235 1.5120 1.5040

## 英ポンド/円

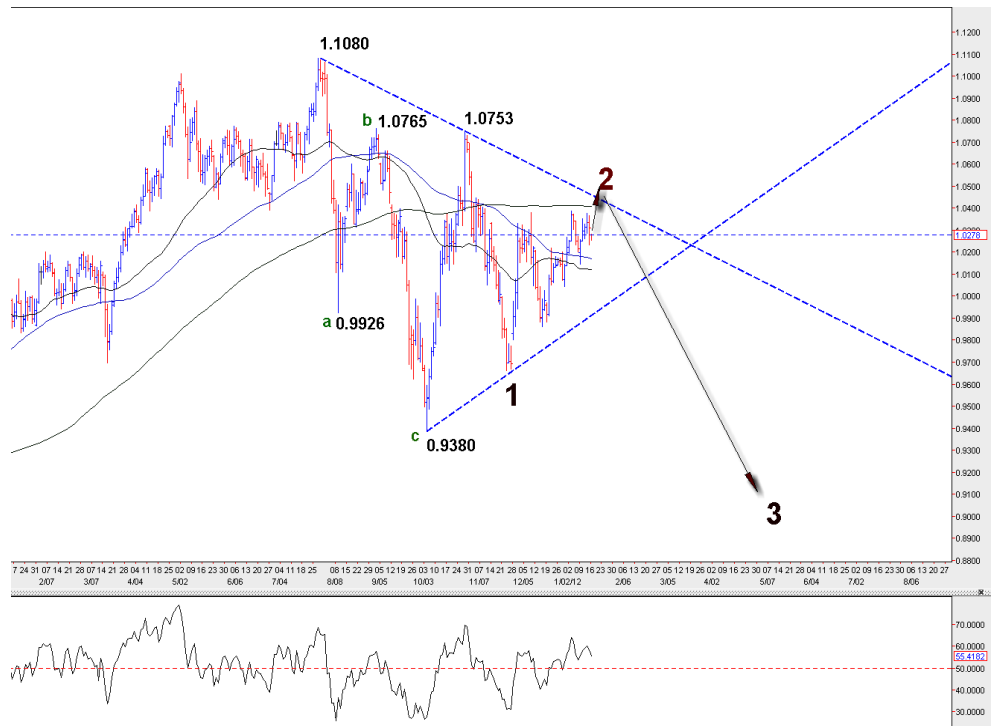
- ※ 07年高値(251.11)を起点とした下落変動は5波構造を持ち、09年高値(163.07)から継続された下落チャネルに沿って、なお5波の途中と見る。
- ※ 10年末からの値動きを大型「下落ウェッジ」型変動(緑)と捉える場合、D波はすでに127.38に終焉し、E波の安値をトライするベアトレンドは進行中。
- ※ まず a-b-c パターンと見る場合、127.38からの下落b波(小文字)はそろそろ116円台後半で達成される公算、今週一旦底打ちし、リバウンドを展開しよう。
- ※ c波は最大121前後まで上値余地を拓く公算だが、いずれ頭打ちとなり、大型E波が示すベアトレンドへ復帰しよう。次にターゲットは114.25~115.05を照準。



英ポンド/円 日足 抵抗: 118.75 120.20 121.05  
 支持: 116.77 114.25 112.43

## 豪ドル/米ドル

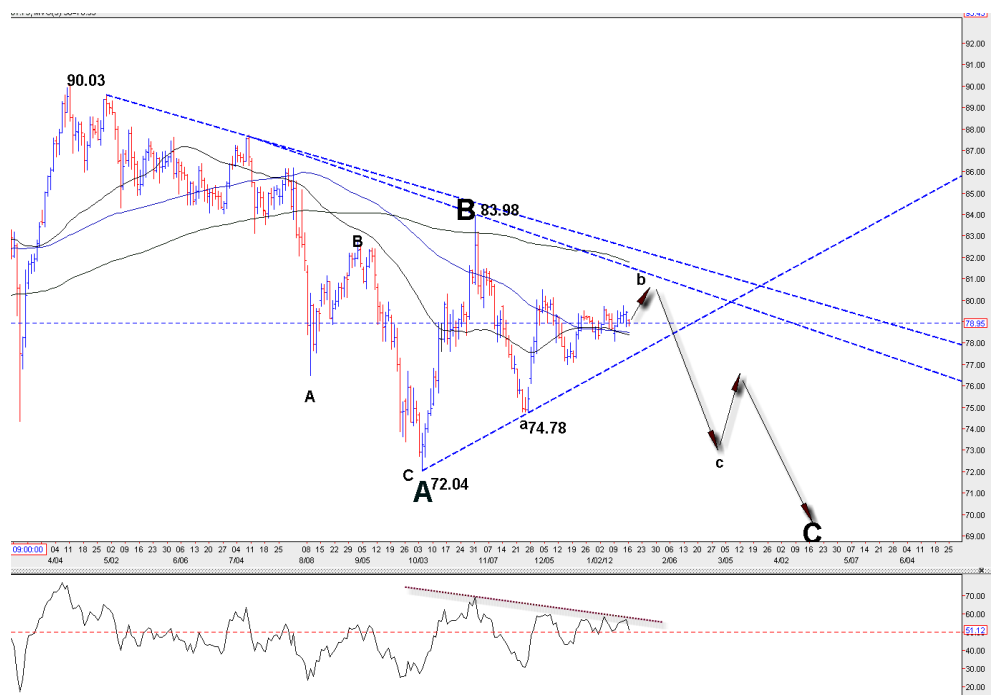
- ※ 豪ドルは 1.1080 にてトップアウトし、大型 5 段下げ構造をもってベアトレンドを展開、0.9380 までの下落は同第 1 波変動に当る。
- ※ 0.9380 を起点としたリバウンドは調整波となる第 2 波と見なし、10 月高値の 1.0753 にて完成し、同高値を起点とした下落 3 波はすでにスタートし、0.8500 割れを目指す。
- ※ 下落 3 波自体は 5 段下げ構造となりやすく、11 月安値をもって 1 波が終了し、2 波のリバウンドに入る。大型トライアングルのサポートもあり、先月の底打ちも確認、リバウンド 2 波を展開中。
- ※ 1.0405 はメインレジスタンス、ブレイクがあれば、最大 1.0600 前後の戻り余地を拓くが、調整波であるだけにいずれ再度頭打ちで強い 3 波下落に復帰しよう。今週戻りの限界を探るへ。



豪ドル/米ドル 日足 抵抗: 1.0386 1.0405 1.0535  
 支持: 1.0145 0.9860 0.9650

## 豪ドル/円

- ※ 豪ドル/円は豪ドル/米ドルに追随、90.03 にてトップアウトし、大型 A-B-C の変動パターンをもってベアトレンドを展開中。
- ※ 9 月安値の 72.04 をもってその A 波下落を完成し、10 月 31 日高値（日銀介入後の高値）93.98 をもって調整波 B のトップを付けた公算。
- ※ 足元では 93.98 を起点とした C 波推進に位置するが、C 波自体が a-b-c の三段下げといった構造を持つ蓋然性が高く、昨年 11 月安値をもって a 波が終了し、b 波反騰を継続中。
- ※ 80.00~55 ブレイクの有無は肝心。ブレイクがあれば 82 前後までリバウンドの余地を拓くが、80.55 突破なしでは、b 波反騰の早期終焉も視野に。c 波ターゲットは 70 関門以下に据える。



豪ドル/円 日足 抵抗: 80.55 81.85 83.50  
 支持: 78.05 76.70 74.75